

次月活動予定

8日

- 2日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 3日 再犯防止推進サポート事業県南家族教室
- 5日 アディクションフォーラム実行委員会
- 6日 宇都宮保護観察所プログラム
- 7日 再犯防止推進支援県北 再犯防止推進サポート事業県南
- 8日 再犯防止推進サポート事業県央
- 9日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 再犯防止推進サポート事業県北
- 10日 再犯防止推進サポート事業県央家族教室 家族教室 再乱用防止教育事業県央
- 15日 再乱用防止教育事業県庁
- 22日 宇都宮保護観察所プログラム 再犯防止推進サポート事業県央
- 23日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 ダルク意見交換会
再犯防止推進サポート事業県北
- 26日 東京保護観察所プログラム エンパワメント・グループ研修
- 27日 再乱用防止教育事業県南
- 28日 再犯防止推進サポート事業県南
- 30日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導

9月

- 2日 アディクションフォーラム実行委員会
- 4日 再乱用防止教育事業県北 再犯防止推進サポート事業県南
- 5日 JRCNA 15 in 宇都宮
- 6日 JRCNA 15 in 宇都宮 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 7日 JRCNA 15 in 宇都宮
- 8日 JRCNA 15 in 宇都宮
- 9日 東京保護観察所プログラム ガイドポスト
- 10日 宇都宮保護観察所プログラム
- 12日 県北家族の集い
- 13日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 再犯防止推進サポート事業県北
- 14日 再犯防止推進サポート事業県南家族教室
- 17日 宇都宮保護観察所引受人講習会 再乱用防止教育事業県南

発行所

郵便番号一五七—〇〇七二 東京都世田谷区祖師谷三—一—一七—一〇二号
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

SSKO

栃木 DARC

ニュースレター 第194号(2018,7.)

Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

薬物事件に関して少し

特定非営利活動法人 栃木 DARC
代表理事 栗坪千明

梅雨も明け、夏本番になったこの季節、子供達も夏休みに入り開放感で熱のこもる季節です。一方熱中症対策など体調管理など大変な時期になってまいりました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、ここ数件違法薬物で逮捕されるという記事が目につきます。使って捕まると目立つ人たちの記事ですね。季節的に多いのでしょうか。その中でよく使われている表現が「ストレス解消のためにやった」という文面です。これはどうなのだろうと読むたびにじっくりしないので私だけでしょうか？少なくともダルク関係者は同じ感覚を味わっているのではないのでしょうか。その人を非難しているわけではありません。使用理由を報道する必要があるのかということです。これを読んだ人はどのように感じるでしょう。「覚醒剤を使わずにはできないほどストレスの高い仕事。」あるいは「ストレスを抱えた時に覚醒剤は効く薬。」でしょうか。いずれも私はピンときません。また、入手方法にも触れています。ネットなどで購入する際の隠語の紹介などですが、これも日々変わりますよね。売人がわも常にアンテナを張っているのでマスコミに一度掲載された隠語はもう使わなくなるでしょう。

社会的に立場のある人や、有名人が薬物で逮捕されると記事としては価値が高いのかもしれませんが、「逮捕」の文字がクローズアップされることで司法的な問題であることを決定的にしてしまう効果もあります。司法的な問題は、依存症という病気になってしまう違法なものを売っている人たちだけの様な気がします。

やった人たちに責任がないわけではありません。違法とわかっていつつ、使用をはじめ(依存になると選ぶことはできないので)逮捕され自分の人生を誤ったという自分に対する責任は大いにあると思います。また使用によって重くのしかかる家族への影響も大きなものとなります。

最近、ネットなどでは回復について詳しく特集する番組も増えてきました。地上波でももっと放送されれば、もっと深くどんな分野の社会資源が関わることが必要なかの理解が進むのではないかと思います。何しろこの分野に関して日本は後進国なのですから。

編集 特定非営利活動法人栃木DARC

〒321-0923

栃木県宇都宮市下栗町 2292-7

TEL 028-666-8536 FAX 666-8537

URL <http://www.t-darc.com> Eメール:nesm@t-darc.com

柔軟な心

ピースフル・プレイス
栃原 タ子

今年はジメジメとした梅雨が長く感じました。毎年、春から夏にかけて季節の変わり目は同じようにくるのですが、ここ数年は「から梅雨」だとか「災害まで招くような梅雨」だとか、もともと梅雨って、どんなものだったかなと考えてしまうくらい不安定な気候になっているのを感じます。

そんな季節の中、女性施設で新しい取り組みが始まりました。利用者数が増えてきたことで、今の建物の広さで全員が寝泊まりして過ごすことの難しさを感じていました。その難しさをどうしようかと検討していた時、移転した本部に隣接しているマンションの1世帯を女性施設のアフターケアホームとして利用できることになりました。6月末から卒業生1名、就労者3名、それ以外の利用者（ハウスリーダー）1名が移動し生活を始めました。同時に各施設のハウスリーダー、サブリーダーという新たな役割も作りました。女性施設が開設して8年6ヶ月。1つの建物で入寮から卒業までのステージを取り組める流れで生活の基準も作られてきましたし、ロールモデルを機能させていくことの難しさもあり、役割の担当制という形に変更しその形が定着してきていたところでした。常に課題はありましたが、環境は落ち着いてきたのかなという感覚さえあったので、この状況の変化に気持ちが1番追いつかないでいたのは利用者よりも私だったかもしれません。けれども必要に迫られて変わっていくものなんだろうと受け入れる態勢がもてた時、私自身の課題が目の前にドンと出てきました。信じることと手放すことを徹底しないと、やれない。そう感じるようになりました。役割の担当制だけで施設を機能させていくときと、ハウスリーダー、サブハウスリーダーの存在を活かしながら機能させていくことの違いは大きくはつきりしていました。

アフターケアホームで利用者が生活をするに関しても、大袈裟に言えば「目が届かなくなる」という感覚が強く出ました。利用者にある程度任せること。それはダルクの生活の中で大事にしていきたいと思っていたことですが、常に私がいる環境の中では徹底されていなく、私の意識の中でもしていないかったことを自覚しました。自分の言動や行動に自信が持てずにいるのも、これまでの成功体験が少ないことやマイナスの結果を恐れてやろうとしないこと。やらなければ責任もないし、傷つくこともない。自発的に考え、判断し、動いていくことをできるだけやらないできた人たちが、この新しい流れの中で動き始めるようになりました。

今回、私はもっと利用者の持っている力を信じないといけないと思いましたし、利用者がやれることを増やして広げていかないといけないと考えるようになりました。これまでも表面的にはそれは大事なことだと思っていたのですが、緩い感じでしか意識も行動もできていなかったと思います。

女性の依存症者の回復は、いろいろな意味で大変だと感じています。けれど、自分自身に柔軟な心とやってみようと思える勇気が少しあるだけで、変えていけるものも沢山あるような気がします。

道

依存症のシュン

今回で3回目のニュースレターです。

施設につながって1年8カ月です。ニュースレターを書くペースが6カ月に1回でこんなに早く順番が回ってくるとは思いませんでした。

私は小さい頃は素直で明るく元気な子でした。中学校3年生の時に不良デビューしました。不良に憧れたきっかけは女にモテているのを見て、羨ましいと思ったからです。

学力が低かったですが私立高校に行きました。周囲には不良が多く暴走族やカラーギャングが流行っていて私もカラーギャングに入りました。ですが何も活動せず、あまり楽しめませんでした。それから変化があり暴走族に入りました。

私は覚せい剤依存症です。

16歳の時に家族と縁を切り不良の先輩の家に住むことになりました。その時に不良の先輩が覚せい剤をやっていて、自分にもやるかやらないか聞いてきました。最初はテレビや新聞でも逮捕されている人が沢山いて、ものすごく恐ろしい薬物だと感じていました。

ですが少し興味があり、先輩からも「社会勉強だ」と言われ試しに一度やってみたらものすごい快感を感じました。二度、三度とやっていく内にやめられなくなっていました。私はたった一日で覚せい剤にハマってしまいました。それからというもの、お金があれば全て覚せい剤につき込んでしまいました。私の人生がおかしくなってしまったのは間違いなく覚せい剤が原因です。家族や周囲には内緒にしていたのですが結局バレてしまいました。そんな時に先輩、親友、彼女、友達、後輩に「やめてくれ」と言われましたが、やめると嘘をつき結局やめる事はありませんでした。人に嫌われなくなかったし、好かれたかったからです。今考えると誰にも迷惑をかけていないし、うるせえな…とっていました。だけど、今考えるとどうして止めてくれたのに止められなかったんだろうと思います。

自分の意志で止める努力をしてみました。止められない私がいまいました。覚せい剤を自分の意志でコントロールできる人はまずいないと思いました。

だけど私の二人の先輩は刑務所を出所してから堅気になり、昔の関係を断ち切って覚せい剤を止める事ができました。私は先輩と同じように全ての関係を断ち切れれば覚せい剤を止める事が出来ると言われましたが、覚せい剤を断ち切ることが出来ず覚せい剤を使い続けてしまいました。ただ1番に思うのは意志の弱さと環境だと思いました。

栃木ダルクに入寮当初は施設の事が全くわからなかったし、それよりも何よりもこの先私がどうなるのか、とか将来の事が心配でした。私は覚せい剤で2回刑務所に行きました。2回とも仮釈放をもらわず満期出所でした。1度目の逮捕から2度目の逮捕まで空いた期間は4カ月しか空いていませんでした。そして刑務所に行きましたが、刑務所を出所して、またすぐに覚せい剤を使う生活に戻りました。だから、これまでの私の生き方を変える事が不安でいっぱいでした。いくら私が覚せい剤を使わない生活をしようとしても、きっと私の周りの人たちは信用しないと思いますので施設の生活やプログラムの中で昔の生き方では出来なかった我慢することや感謝する気持ちを持つことを大切にしていきたい思いで日々生活しています。長年かけて出来てしまった内面的なものや癖は覚せい剤が止まったからと言ってすぐに変えられない物だと思っています

これからの自分…？

アディクトのショウ

初めまして、アディクトのショウです。

今は、那須 1st.stage center に入寮中です。6月に入寮して1ヶ月が過ぎました。

入寮する前は、毎日お酒を飲んでテレビを観てダラダラしていました。体調も悪くて、いつもフラフラして、背中が痛かったり、肩が痛くて、体も重くて…「やる気も出ない…」と、言う感じでした。お酒を飲まない不安で、朝から夜まで飲んでいて状態が何年も続いていたので、親が病院に行くように…と言って来たのです。そして、病院に行って…医師より、施設の話を知りました。しかし、入寮する気にはなれずに1年が過ぎたのです。そこで、入院をして見る事になりましたが…入院中は飲まないでいられるのですが…退院してから、また飲んでしまい…。施設に入寮することになりました。施設に入るのに1ヶ月くらい色々悩んで決めました。不安の中で入寮して、新しい生活が始まり、毎日を過ごすのが大変でした。最近では、少し慣れてきたので、少しは楽に成ってきました。まだ、1ヶ月位なので分らない事が多いのですが、少しずつ慣れていこうと思います。

ダルク MT や NA は苦手で、人前で話をしたりするのが好きではないので、出来れば出たくないのですが、プログラムなのでなんとかやっています。(ストレスかも？(笑)) この施設で、今までの生活を変えて回復しないと、何の為にここに来たのか？分らなくなってしまうので、施設のプログラムをやって回復する様に1歩、1歩…前に進んでいこうと思います。その為に、今は苦手な事も含めて自分の為に成る事だと思い、毎日を過ごしています。施設には、色々な人生を生きてきた仲間が集まっているので、色々な話が聞けます。そうなのかなあ…、そうかなあー…と、10人10色な人生が有ると思います。そんな中、この施設で回復を目標に前進して行く訳ですが…本当に回復出来るだろうか？と言う不安も有りますし、卒業してからも飲まずにいられるのだろうか？と言った、不安も有るのですが…不安がってばかりもいられないので…前向きにプログラムをクリアして行こうと思っています。そうすれば、回復して普通の生活を送れる様に成れるという期待もあるので、ポジティブに考えて進んで行こうとしています。また、1ヶ月を過ぎたばかりなので、施設でまだまだ、覚える事が多くて大変ですが、自分が今までの生活じゃ駄目だと思い…ここに来てる訳なので、日常生活などを改善して少しでも早く卒業に向かい、頑張る気持ちで居ます。そうしないと、自分が駄目に成っていくと思うし…今までに、この施設に入寮するまでの間に、手助けをしてくれた人達や親に合せる顔が有りません…申し訳ないです。せつかく、自分を変える？回復する？の為に悩んで入ったのですから…そんな、みんなの気持ちを裏切らない様に頑張りたいと思っています。今やっている事は、のちのち自分の糧に成ってくれると思って頑張ります。

これからの自分が、どう成っていくのか？今の自分の考えや行動の積み重ねや、周りの環境などで作られていくと思うので、前の自分を変えたいと決めてきたので、これからの自分を変えていこうと努力していきます。そして、新しい普通の生活を過ごせる様に社会に復帰することも考えて、これからのプログラムに取り組んで行きたいと思っています。

与えられたもの

依存症のテル

こんにちは。1年振り、3度目のニュースレターです。3sc(宇都宮)に来て早いもので1年と3ヶ月。栃木 DARC に入寮してからは3年2ヶ月経ちました。DARC に来る前の生き方への未練は全く無い訳ではないのですが今は、新しい生き方を選んでいます。時々襲ってくる薬の欲求が入る間隔もこの3年でどんどん伸びていきますし、欲求が入った時も入寮したばかりの頃、僕は仮釈放中だったので観察所と施設に見つからないで使うタイミングはいつだろうかと考えていましたが、クリーンが続いていく過程のなかで色々欲求に対する考え方が変化していき現在は薬を使うか使わないかを悩むというよりは使わない事を自然に選択出来るようになりはじめたかなあとプログラムや NA を通して感じています。栃木 DARC のスタッフを目指すという意味を固めて2年になります。志望動機は僕の回復も含め仲間が回復し変化していく姿を見られるのが楽しいと思えた瞬間でした。けれども現実楽しいだけの職業なんてないことや、それらのことをどう受け入れていくかが大切で必要なのだとつくづく感じながらの毎日です。キャパの小さい頭の中がオーバーヒート寸前になり違う道を選択し直そうかと思った事もあり、3sc に移動してからは激動の一年間でした。危ない状態だったと思います。仲間といるより一人でいたい。施設移転という環境変化の最中そう思う事が多くなっていましたね。自ら孤立を選択している。久しぶりに警察に逮捕される夢もみました。目覚めた時は汗だくで夢である事にほっとしました。何かが狂い始めていたし違和感もありました。投げやりになりそうな感覚がちょいちょい顔をだすような。そんな時に 1sc(那須)に連泊する機会を与えられました。栃原さんから声をかけてもらった時は、正直ゆっくり休みたいな～と思ったのですがふと、『何を選択できるかですよ』という大吉さんがよく言っている言葉が入り込んできました。(二人を持ち上げている訳でないですよ 笑) 結果から言うと本当に良かったです。僕の回復の原点是那須にあると思っていてそこにはそれぞれの僕がいました。入寮間もない時、役割に就いた時、問題を起こした時、仲間不信感があった時、薬を止めたいと思った時、仲間あつての回復だとかやっと感じられた時、言うときりがありませんが施設の所々とか、個々の仲間の雰囲気やそれらを伝えてくれました。単純に心地よかったです。アシスタンスという立ち位置に驕っていたのかもしれませんが。回復は続けていくものなのに何を伝えるべきかにとらわれていた気もします。続く仲間にこんなに多くのものを与えられた感覚を味合わせてもらえるとは正直、予想外でした。役割を持つ仲間に僕が那須にいる頃に思っていた事をそのまま言われた時、素直に感謝しました。僕が変わっている事と回復の面白さに気づかせてもらった事に…。そうそう那須はこうだよねと楽しい気持ちにもなれました。この感覚なんですよ。僕がスタッフを目指そうとしたのは。自分の変化を感じる事って大切です。3年経ち小さい変化の積み重ねがあつて今がありますし、クリーンの積み重ねも大事ですがその中で自分の評価もたまにはしてあげないと楽しく回復出来ませんし夢もないです。自己効力感を感じられない僕には特に必要だし高く持ち過ぎて勘違いしない事も調子に乗りやすい僕にとっては課題です。その辺のピントの合わせ方が少しだけ上手になってきたような気がします。現在は NA のコンベンションと 10月のスタッフになる為の試験に向けてエンジンをかけています。てんてこ舞いですが、やりきった後に与えられるものは僕の人生の中で最高に健康的で最高に素晴らしいものになるはずなので頑張ってみます！

気温も高くなりましたので皆様、くれぐれもご自愛下さい。

今の私に必要なもの

こんにちは、ニューズレターは二度目になります依存症のエミです。クリーンは今月で1年と3ヶ月になります。今回は「今の私に必要なもの」について書きたいと思います。

まずは、私に必要なのは仲間が存在です。私は施設につながって1年3ヶ月になります。そして施設にはいろんな仲間がいます。私は学校卒業後、ほとんど友達がなくて、仕事先の同僚も友達と言える存在ではなかったのですが、施設に繋がってたくさんの仲間が出来ました。

その仲間たちは、私が経験したことのないことを経験したり価値観が違ったり常識が違ったりして、いろんなことを学ばせてくれます。それに私のいろんな欠点に気づかされたり、そんな欠点をさりげなくフォローしてくれたりします。例えば、私はとても「気にしい」なのですが、気になることがあったらすぐに仲間に相談します。ほとんどの場合「気にしすぎだよ」と言ってもらってひと安心するのですが、そんなやりとりにもいやな顔ひとつせずつきあってくれる仲間にとっても感謝しています。そして、いつもみんな仲良くワイワイ過ごしています。そんな仲間たちは私にとって、とても必要な存在だと思います。

それから、もう一つは、以前に施設長に「どうしてエミは自己肯定感が低いんだろう」と言われた事があって、初めはピンとこなかったのですが、後になってよく考えてみると全くそのとおりだなあと自覚するようになりました。ただ、いつからそういう傾向にあったのかとさかのぼって考えてみたところ、私は大学の時に、みんながやるように、就職活動をしなかったなあと思います。当時は「家事手伝い」という肩書がはやっていて、私もそれに乗かって、何も苦勞をして就活をして仕事をしなくてもよいと思っていました。でも、だんだんとまわりが仕事をしている中、自分だけ仕事をしていないということが恥ずかしくなってきた、自信を失っていきました。そのあたりから私は自己評価が低くなっていったのかな、と思います。でも、自分の意識を変えようと思ったらどうしたらいいか、それをどうやって克服したらよいか分からないでいました。

そんなときに、施設の本棚で「自己肯定感てなんやろう？」という本を見つけました。これこそ今の私に必要なだと思って手にとってみたのですが、どうも考えすぎて迷路に入ってしまったなかなか読み進めませんでした。ですが、その本書いてあったのは、「宿命を背負って一所懸命自分を褒めてあげることで自己肯定感もてる」と書いてあって、自分におきかえると、「薬物依存という重い目を背負いながら一生懸命自分の依存的な面や欠点を取り除いて自分を認めてあげる」ことで自己肯定感をもてるのかなあ、と思いました。

一朝一夕でできることではないと思うの、ゆっくり、自分を認めていくことから始めようかな、と思っています。

それから、私に必要ななと思う事は、「自分が変わろうとする」ことです。

私は、人の欠点もあまり気にならないかわりに自分の欠点もあまり気にしない傾向があります。まわりからみると、たくさん欠点があるのだろうけれども、それを欠点だと認めようとしなふしがあります。

先日、私の欠点として、「あきらめが早い」というのを仲間に教えてもらう機会があったのですが、せっかく教えてもらったのにもかかわらず、初めは素直に受け入れられず「人生あきらめが必要」って時もあるしなあ…と思ってしまったなかなかその欠点と向き合おうとしませんでした。でも、最近になってやっと「あきらめが早い」ということはつまり「ねばり強さが足りない」ということだと気づきました。なので、これからは仲間の言う事に耳を傾け、自分を変えていくように努力していく必要がなと思います。

以上のようなことが今の私に必要なものかな、と思います。 つたない文章ですが、最後まで読んでいただいてありがとうございます。

7月にステップアップした仲間

1st	・クニ リーダー～チーフへ
2nd	・コウヘイ メンバー～サポートへ
3rd	・該当者なし
CF	・該当者なし
PP	・マナ、キララ Stage1～Stage2へ

7月の献金・献品

(献金) 二大地苑様、渡辺光男様、鹿沼保護司会様、匿名者1名様(移転献金も含む)

(献品) 栃木県小山市保護区保護司会様、他匿名者3名様

とても助かっており、栃木ダルクー同感謝しています。

お知らせと一言

！自立して

・関東地方もようやく梅雨が明け夏本番となりました。涼しい日が続いた分この猛烈な暑さにうんざりする今日この頃ですが、暑さに負けず元気一杯頑張っていきたいと思います。

編集 秋葉

今が青春

依存症のオオヤ

太陽の距離も近くなり毎日暑い日が続く中、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は1年10カ月暮らした那須の1St Stage Centerから那珂川コミュニティーファームに移動する事が出来ました

那須の施設に来た時、私の両脚大腿骨は壊死し『生』への執着さえ無かった自分が、農業を通し団体の中で1つの目標に向かい共同作業をしていくことが、自分の心と体のリハビリ(回復)だと思い、那珂川への移動を希望しました。

左脚の手術とリハビリが終了し、もう一方の脚に痛みも無く、至って経過は良好です。

私は那須の施設でたくさんの問題を起こし、何度も仲間達に迷惑をかけてきました。仲間達は問題を起こす度に、こんな私に正面から向き合ってくれました。

それなのに「私は問題ばかり起こす、回復・成長などできない人間です。身捨ててください」というような態度を取りつづけました。それでも仲間達・施設長は私以上に私と向き合ってくれました。

私の善い面・悪い面も含め私と付き合いを続けてくれて、私も「素直に聞こう・信じてみよう・正直に話してみよう」と思いました。また、自分も仲間も善悪の両面を持っているということを知り、人から許されているのだから反目を抱いてしまう相手も、価値観が違う仲間も許していかななくてはいけないと思えるようにもなりました。

しかし私の猜疑心はとても強く、人に許されても「いつか裏切られる・本当の気持ちでは許していないのだろう」という思いが頭をもたげ、信じる気持ちを否定していました。だから「人を信頼したいが、信じる事が出来ない」と正直に話し、そのような矛盾した内容に仲間を困惑させていました。

行動と思考が解離し、自分自身が分からないという中途半端な状態が続く中、仲間達が私の誤りや問題を教えてくれたから、自分の面倒くさい性格を今も変え続けられています。

私が問題を起こし皆を巻き込んでも、施設全体で自分の為に励まし、支え続けてくれた仲間達に、感謝の気持ちを決して忘れてはいけないと思っています。

「個人の回復はNAの一体性にかかっている」私は回復を仲間達から頂きました。だから、その回復を大切にして新しい仲間につなげていけるよう「思いやり・優しさ」を学んでいきます。

しかし今の自分には、思いやりも優しさも欠けていて足りないと思います。「何か欠けている・何か足りない」いつも自分が行き詰った時に、心で唱えていました。施設でプログラムを受け、過去のことを卸していく中「自分」という物が無い人間だと思ふようになりました。

日々のNAやミーティングで話す内容や対人関係で起こる問題の大きさと、自分が幼

稚で嫌なことから逃げてきたせいも、働いた話も恋をした話も抜けている。人間として生きていくのに必要な物は、きっと苦勞や耐えることが必要なんだと実感します。また、三人称での楽しみや葛藤が人を成長させるんだと考えています。

「苦痛や苦悩は人生の花」と、40代で言えれば良いなと思っています。止まっていた人生が前に進み始めた今、過去を振り返りとても恥ずかしいと思っています。

「自分の足りない何かを埋めていくのが人生だと思う」とある本で、亡くなった同級生を残し卒業する生徒に送ったという教師のこの言葉が、30を迎えた自分の考えになりました。

「自分探しの旅」ダルクに来た本来の目的は薬を止め続けることよりも「今日一日」で過ごしていくことだと思うようになりました。成長しながら生きるということは、苦しいこともあるけど「今日一日」を過ごしていく日常を手にしていきたいです。

「昔はあんなに笑って、お調子者だったのに…」母は言っていました。私は薬に走るようになった後、子供の頃の自分をそう言っていました。

今、仲間と冗談を言いながら作業するのは、生きる実感がします。自分を探し続ける回復ですが、大切にできる物を増やしていきます。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

施設報告

1sc (導入) 14名 2sc (回復) 10名 3sc (後期・社会復帰) 12名 CF (農業) 14名 pp ピースフルプレイス (女性) 14名計64名で活動しております。
各々の施設でステージ事のプログラムを実施しております。